

Unify[®] DataServer:[™]
UNIX 版インストールガイド

Unify DataServer

© 1999 Unify Corporation. All rights reserved.

Publications team	Anna Carlile Linda Costello Layton Damiano	Kathy Duarte Le Sellers
------------------------------	--	----------------------------

No part of this document may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Technical Publications Department values and appreciates any comments you may have concerning our products or this document. Please address comments to:

Unify VISION Product Manager
Unify Corporation
3927 Lennane Drive
Sacramento, CA 95834-1922
(800) 24-UNIFY _ (916) 928-6400 _ FAX (916) 928-6401

Unify and ACCELL are registered trademarks of Unify Corporation. Unify VISION, Unify VISION AppServer/AppBuilder, VISION AppMan, ACCELL/SQL, Unify DataServer, and the Unify logo are trademarks of Unify Corporation. Other brand or product names shown are trademarks of their respective owners. Printed in U.S.A.

Part Number: 7827-01

目次

UNIX ワークステーションの構成	1
ネットワーク・システム・コンフィギュレーション	1
ネットワーク未対応コンフィギュレーション	1
インストールの準備	2
リリースの読み込み	4
インストールの完了	8
インストール後の Unify DataServer のライセンス登録	9
エラー・メッセージ抜粋	11

UNIX ワークステーションの構成

このリリースをインストール中にご不明な点があれば、販売代理店または「ユニファイ・カスタマ・サポート」までご連絡下さい。

コンフィギュレーション要件

メモリ	32MB
ディスク容量	100MB 以上
ソフトウェア	README でシステム・ソフトウェア要件を参照して下さい。

Unify DataServer の旧リリースからアップグレードする場合は、『*Unify DataServer : Migration*』およびリリース・メディアの README ファイルを参照して下さい。

ネットワーク・システム・コンフィギュレーション

Unify DataServer は、ネットワーク・コンフィギュレーションとネットワーク未対応コンフィギュレーションをサポートしています。ネットワーク上でインストールする場合、ソフトウェア・リリースの格納ディレクトリは、ネットワーク経由でインストール・サーバにマウントされているファイル・システム上に指定して下さい。これにより、あるコンピュータ上でインストールおよびライセンス登録を行ったリリースを、別のコンピュータから実行できます。

ネットワーク未対応コンフィギュレーション

ネットワーク未対応コンフィギュレーションの場合、リリースのインストールと実行は同じコンピュータ上で行います。

インストールの準備

Unify DataServer 旧バージョンのコンフィギュレーション変数ファイルをカスタマイズしたり、その他の変更を行っている場合、インストールを始める前に、必要なファイルを別の場所にセーブし、後で使えるようにしておく必要があります。

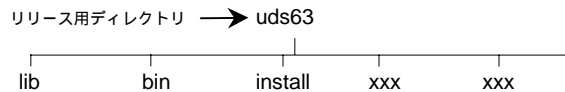
以下のステップに従い、ソフトウェア・インストールの準備を行って下さい

1. リリースのシリアル番号が書かれた粘着ラベル・セットを探して下さい。
1枚のラベルを『ユーザ登録書』に貼り、もう1枚をリリース・メディアに貼って下さい。
2. 『ユーザ登録書』をユニファイ・ジャパンまでご返送下さい。登録書にはファックスで送る場合の指示も書かれています。

警告 ステップ3と6では、以下のディレクトリをリリース用ディレクトリにすることはできませんので、ご注意下さい。

/	/lib	/usr/bin
/bin	/usr	/usr/lib
/etc		

これらのディレクトリの下にサブ・ディレクトリとして、リリース用ディレクトリを作成することは可能です。但し、Unify VISION、ACCELL/SQL、UNIFY2000などのUnifyソフトウェアの旧リリースをリリース用ディレクトリに入れることはできません。下の図を参照して下さい。



3. 以下の情報がインストール中に必要となりますので、事前に控えておいて下さい。
 - a. 必要ディスク領域（リリース・メディアのラベルを参照）
 - b. テープやフロッピーからインストールする場合は **tar** または **cpio** コマンドを使用します（リリース・メディアのラベルを参照）。
CD-ROM のリリースの場合は、マウントされるファイル・システムを控えておいて下さい。
 - c. リリースをインストールするファイル・システム名

- d. リリース用ディレクトリ名 (*release_dir*)。なお、リリース番号をディレクトリ名の一部に使用して下さい。将来アップグレードする際、ソフトウェア・リリースの上書き防止に役立ちます。
4. リリース・ファイルを全て所有するシステム管理者として、コンピュータ・システムにログオンして下さい。
5. CD-ROM からインストールする場合、*/cdrom* ディレクトリがまだ存在しないなら作成して下さい。各プラットフォーム別指示に従って、*/cdrom* をマウントして下さい。なお、ここに挙げた例では、インストール後のアンマウント・コマンドも示しています。

HP-UX

マウント

pfs_mountd デーモンと **pfsd** デーモンが既に動作している場合、a と b のコマンドは不要です。ps でデーモン動作状況をチェックして下さい。

- a. `/usr/sbin/pfs_mountd &`
- b. `/usr/sbin/pfsd &`
- c. `/usr/sbin/pfs_mount -t rrip device_name /cdrom`

アンマウント

`/usr/sbin/pfs_umount/cdrom`

IBM AIX

マウント

`/usr/sbin/mount -v cdrfs -r device_name /cdrom`

アンマウント

`/usr/sbin/unmount/cdrom`

DEC Digital Unix 4.0

マウント

`/sbin/mount -t cdfs -r -o noversion device_name /cdrom`

アンマウント

`/sbin/umount/cdrom`

6. CD-ROM メディア用ディレクトリを作成し、移動して下さい。

リリースの読み込み

インストール・ユーティリティは `installmsgs` という名前のファイルを作成し、リリース用ディレクトリに配置します。インストール後に、このファイルで進捗や状況に関するメッセージを確認することができます。

リリースをインストールするには、以下のステップを行って下さい。

1. インストール・プロセスの `umask` を `000` に設定して下さい。
2. CD-ROM からソフトウェアをインストールしている場合は、ステップ3にスキップして下さい。テープやフロッピーからソフトウェアをインストールしている場合は、2ページのステップ3で控えておいたアーカイブ・コマンドを使って、リリース・メディアから全てのファイルをコピーして下さい。
3. インストール・メディアのディレクトリに移動して下さい。

警告 ステップ4では、必ずリリース・ファイルを読み込んだユーザと同じユーザ ID でインストール・ユーティリティを実行して下さい。

4. インストール・ユーティリティを起動するには、`install/install` とタイプし、リターン・キーを押して下さい。

インストール・ユーティリティは、インストール・ディレクトリが書き込み可能であることを確認し、(CD-ROM から)書き込みができない場合には、別のディレクトリにインストールするか否かを尋ねます。継続する場合は `y` を、インストールを中止する場合は `n` を入力して下さい。

5. プロンプトで `release_dir` のパスをタイプし、リターン・キーを押して下さい。

指定したディレクトリが既に存在し、そのディレクトリに対して書き込みパーミッションを持っている場合、インストール・ユーティリティは警告を表示し、継続するか否かを尋ねます。以下に例を示します。

```
Directory /home/alc/ds exists.  
All files and directories in this directory will be removed.  
Continue instllation and remove files (y/n)?:
```

`y` と答えると、`release_dir` の全データ削除について、もう一度警告が表示されます。

Unify DataServer の各ファイルが `release_dir` にコピーされてゆく毎に、ユーティリティがドットを表示します。

6. 製品のインストールを告げるメッセージが表示されたら、その情報をよくお読み下さい。リリースをインストールしても良いなら、リターン・キーを押して下さい。

ステップ7のオプション3を選択すると、インストールは中止され、インストール・ユーティリティが終了します。

7. インストール・スクリプトが以下のプロンプトを表示したら、Unify DataServer のライセンス・キーを今入力するか、後で入力するかを選んで下さい。

Select one of the following licensing options:

- 1) Enter license key now.
- 2) Continue installation and license the release later.
- 3) Terminate installation.

Selection:

ライセンス・キー・コードを持っていない場合や、ライセンス登録を後回しにしたい場合は 2 を入力して下さい。プログラムは確認メッセージを表示して、インストールを継続します。8 ページの「インストールの完了」にスキップして下さい。

8. ステップ7でオプション 1 を選択した場合は、プロンプトからライセンス・キーを入力して下さい。確認プロンプトが現れますので、エコーされたライセンス・キーが正しいことをチェックし、正しければ `y` を入力して下さい。/install/license.key ファイルにキーが書き込まれます。

9. ステップ7でオプション 2 を選択した場合は、画面に確認メッセージが現れ、ライセンス登録を行わずにインストールを継続します。

ライセンス登録するまでは、Unify DataServer や Unify DBIntegrator は使用できません。リリースのインストール後に、`licacl` ユーティリティを使って、ソフトウェア・ライセンスを登録することができます。これは9ページの、「インストール後の Unify DataServer ファイルのライセンス登録」に説明されています。

10. インストール・ユーティリティは Unify DBIntegrator(ODBC)ライセンス・キーの入力を要求します。表示されるダイアログは、上に示した製品ライセンス画面と同じです。Unify DBIntegrator ライセンス・キーは、/install/license.odbc.key ファイルに書き込まれます。

Unify DBIntegrator オプションを購入していない場合は、オプション 2 を選択して下さい。

なお、1 と 2 の選択肢は、上記ステップ 8 と 9 で説明した製品ライセンス・キーの場合と同じ結果になります。

11. プロンプトでデフォルトの共有メモリ・キーを入力して下さい。または、大括弧付きで示されたデフォルトで良ければ、リターン・キーを押して下さい。

共有メモリのコンフィギュレーションについては、

『Unify DataServer : Configuration and Utility Reference』を参照して下さい。

12. ユーティリティは、オプション製品のインストール・ユーティリティを
実行するか否かを尋ねます。実行する場合は、**y** を入力して下さい。

Unify DataServer ファイルのマジック情報をインストールするには、オプション 3 を選択して下さい。OS のファイル・ユーティリティは /etc/magic の情報を利用して、各種ファイルの型を識別します。 /etc/magic が更新できない場合や、既に情報が存在する場合、インストール・ユーティリティはこのファイルを修正しません。これを継続する前にプログラムが許可を求めてきます。

どのプロンプトでも "x" を入力した場合には、インストール・ユーティリティまたは OS のオプション・ユーティリティを入力した場所まで戻ります。

13. (オプション)使わないリリース・ファイルを削除するには、`rmu2kdev` を実行して下さい。このスクリプトは、ランタイム専用のインストールには不要なファイルを削除します。これが終了すると、以下のディレクトリが `release_dir` に残ります。

ディレクトリ	含まれているファイル
bin	実行プログラムとスクリプト
conv	変換ユーティリティとデータ・ファイル
diag	診断ユーティリティ
include	インクルード・ファイル (Cソース・コードで使用する変数やプリプロセッサ定義を含む)
install	インストールの実行プログラムとスクリプト
lib	ライブラリとデータ・ディクショナリ

Unify DataServer の通常方式と違う方法で作業を実行するために、独自の C 言語プログラムを作成し、Unify DataServer のインストールをカスタマイズする場合は、C 言語ユーティリティがプリプロセス、コンパイル、ロードにおいて使っているように、ヘッダ・ファイル(.h)やアーカイブ・ファイル(.a)を各プログラムの型に応じて指定する必要があります。

ソフトウェアをカスタマイズしたり、RHLI プログラムや埋め込み SQL/A スクリプトを作成することを考えていない場合は、アーカイブ・ファイルは全て削除しても構いません。次の表で、残すべきファイルをカスタマイズ内容に応じて示します。

以下を行いたい場合	必要なファイル
C プログラムを作成して RPT をカスタマイズする	lib/RPT.a
C プログラムを作成してログ・デーモンをカスタマイズする	lib/lgdmn.a
埋め込み SQL/A スクリプトを作成する	lib/S2000*.a lib/U2000*.a bin/upp bin/uld bin/ucc

インストールの完了

インストールのライセンス登録がまだの場合は、ここで行って下さい。詳細は9ページの、「インストール後の Unify DataServer ファイルのライセンス登録」を参照して下さい。Unify DataServer のインストールを完了させるには、リリースのライセンス状況を確認して、幾つかのコンフィギュレーション変数を設定する必要があります。このために、以下のステップを行って下さい。

1. コンフィギュレーション変数 **UNIFY** に Unify DataServer リリース用ディレクトリのフルパス名が指定されているか、確かめて下さい。
2. (旧インストールの)ファイルをセーブしている場合は、それらを新しいリリースの **bin** ディレクトリにコピーして下さい。なお、新しいリリースのファイルには上書きしないで下さい。
3. **prlcinf** コーティリティを使って、リリースのライセンス状況を確認して下さい。下に示すように、フルパスとファイル名を指定して下さい。

\$UNIFY/diag/prlcinf \$UNIFY/bin/Unify

prlcinf コーティリティは情報テーブルを表示します。以下に例を示します。

```
UNIFY 2000 license info:
custid = 0
hostcd = 00
max usr = 0
current time           = 01-27-1999
installation date     = 01-01-1900
expiration date       = 01-01-1900
executable capabilities:
  Accell/SQL is NOT allowed

Unify DataServer license info:
custid = xxxx
hostcd = xxxxxxxxxxxxxx
current time           = 01-27-1999
installation date     = 01-19-1999
expiration date       = 12-31-2020
executable capabilities:
  Unify DataServer is allowed
```

01-01-1900 はインストールされていない製品に対して表示されます。

9 ページの表にリストされた全ファイルの状況について、確認することができます。

install ディレクトリの **README** ファイルで、Unify DataServer インストールに関する追加情報を参照して下さい。

インストール後の Unify DataServer のライセンス登録

ライセンス登録プログラムは、以下の Unify DataServer ファイルを有効にします。

実行形式ファイル 説明

U2000c.a	Unify DataServer のデータベース・インターフェイス・オプションとデータベース本体。
EPP	埋め込み SQL/A 文を含んでいる C 言語ファイルをプリプロセスして、.c の C 言語ソース・ファイルを作成するためのシステム・コマンド。
upp	ucc が自動的に起動するユーティリティで、コマンドライン上でソース・ファイルのコンパイル時名前バインディングを実行します。
ucc	RHLI や埋め込み SQL/A プログラムのソース・ファイルを処理してコンパイルするユーティリティ。
odbcdrmn	UNIX サーバと Windows 95/98/NT クライアント間における情報の送受信に利用するオープン・データベース接続ドライバ。

インストール後にライセンス登録を行う場合、以下のステップに従って準備して下さい。

1. コンフィギュレーション変数 **UNIFY** が、Unify DataServer ディレクトリのフルパス名に設定されているか、確かめて下さい。
2. **\$UNIFY/bin/:\$PATH** のように、コンフィギュレーション変数 **PATH** に **bin** ディレクトリのフルパス名が含まれているか、確かめて下さい。
3. **licacl** を起動するには、以下のコマンドをタイプし、リターン・キーを押して下さい。

```
licacl[ -version | -f file_name ]
```

-version は、使用中のリリースのバージョンを表示します。

-f file_name は、*file_name* というファイルからライセンス・キーを検索します。**-f** オプションを使わない場合、**licvis** がキーの入力を要求します。

4. ライセンス・キーを持っている場合はそれを入力して、ステップ5へ進んで下さい。

OSにエスケープしたい場合は、**sh** と入力して下さい。このステップに戻るには、OSのプロンプトに **exit** を入力して下さい。

ライセンス・キーのコードを持っていない場合は、**x** を入力してユーティリティを終了して下さい。

5. ステップ4の完了後は、**prlcinf** ユーティリティで自分のリリースのライセンス状況をチェックできます。以下のようにタイプして、ライセンス情報を見たいファイルのフルパスとファイル名を指定して下さい。

```
release_directory/diag/prlcinf /path/file_name
```

Unify DBIntegrator をお買い上げいただいている場合、Unify DataServer用にデータベース接続オプションをオープンするには、以下のステップに従い、インストール後にライセンス登録を行って下さい。

1. 自分の作業ディレクトリが **UNIFY** ディレクトリであるか、またはコンフィギュレーション変数**\$UNIFY**が Unify DataServer ディレクトリの **lib** ディレクトリに設定されていることを確かめて下さい。
2. 自分が **license.odbc,key** ファイルに対する書き込みパーミッションを持っていることを確かめて下さい。
3. **licacl odbc** とタイプして、リターン・キーを押して下さい。
4. プロンプト指示に従って、自分のカスタム ID 番号、登録ユーザ数、ライセンス・キーを入力して下さい。どのプロンプトでも **x** を入力すると終了します。

これで、Unify DBIntegrator リクエスト・ブローカがライセンス登録されました。『Unify DBIntegrator : ユーザガイドとリファレンス・マニュアル』の説明通りに構成したり、実行することが可能です。

エラー・メッセージ抜粋

この付録では、インストール・ユーティリティのエラー・メッセージのうち補足説明を必要とするものについて記します。これ以外のエラー・メッセージは、お読みいただければ判るものです。



“install/license.key”にライセンス・キーが入力されていません。

説明

通常、このエラーは最初に `install/install` を実行した際に発生します。下の「ライセンス・キーのインストールに失敗しました。」を参照して下さい。



ライセンス・キーのインストールに失敗しました。



ライセンス・データを設定できません。

説明

`-f` オプションで指定された `file_name` には、ライセンス・キーが含まれている必要がありますが、中が空です。デフォルトの `file_name` は `license.key` ですが、名前は別のものでも構いません

処置

`/install/license.key` または別の ASCII ファイルライセンス・コードを追加するか、`-f file_name` オプションを指定せずに `licacl` ユーティリティを実行して下さい。ライセンス・キーの入力を要求されますので、ライセンス・キーが正しいことを確かめて、`licacl` を再実行して下さい。これに失敗した場合は、「ユニファイ・カスタム・サポート」までご連絡下さい。



xxx/install/settings.xxx のファイルを見つけることができませんでした。

説明

指定されたファイルがカレント・ディレクトリまたはサーチ・パスに見つかりませんでした。

処置

メディアからリリースを再度読み込んで、`install` と `licacl` を実行して下さい。



リリースを全て取り出したか、確かめて下さい。

説明

製品リリースから 1 つ以上のファイルが欠落しています。

処置

リリースの全てを読み込むために、ファイル・システムにもっとディスク領域が必要です。Unify DataServer リリースのディスク要件はリリースのメディアに書かれています。メディアから再度リリースを読み込み、`install/install` を実行して下さい。